



## “ありがとう”の気持ちを込めて

校長 瀧嶋 克己



【 たてわり班でのお別れ給食 】

弥生3月。平成28年度も締めくくりの月となりました。

さて、先月2月24日（金）3・4時間目に「6年生を送る会」を行いました。花のアーチをくぐり1年生に手を引かれ背の高い6年生が入場しました。1年生の方が人数が多いので、6年生一人に対し1年生二人という組み合わせが多くありました。たてわり班で顔なじみの関係だったので、入場が終わると1年生は、6年生に「ありがとうございました。」と一人ずつ感謝の気持ちを伝えていました。

各学年の出し物は、それぞれが趣向をこらし感謝の気持ちと中学校へ向けたエールになっています。周りで見ている人もとても清々しい気持ちになりました。6年生は、お礼に「Builders of tomorrow」という曲をリコーダーで演奏し、「いのちの歌」を合唱しました。

全員合唱「きみとぼくのうらうら」は会場が一つになって歌いました。しっとりとして気持ちを込めて歌っていました。

その後のお別れ給食とお楽しみ会は5年生がリードし、上手に進めていました。

### ■「ひまわり」に決定■

学校だより2月号でお伝えしましたように、4月から開設する特別支援教室の名前を児童から募集しました。1週間で校長室前に置いたポストに43枚も集まりました。1年生から6年生まで全ての学年からの応募があり、同じ名前などもあったので33の候補から名前を選びました。低、中、高学年・専科の先生から一人ずつと他3名出席し選考を開始しました。どれも素敵な名前だったので選ぶのに苦労しました。「ひまわり」には温かみや明るいイメージが感じられ、同じく「サンフラワー」（和訳ヒマワリ）という名前も33の中にあっただことで、親しみがもてるという理由から決定しました。27日（月）の児童朝会で発表しました。

特別支援教室を平成24年度からモデル事業として実施している目黒区、北区、狛江市、羽村市のデータから利用児童数（4区市の合計）の推移をみると平成24年度と平成26年度では、約1.7倍に増加したというデータがあります。

年 度	24	25	26
利用児童数	283	371	469

これは、特別支援教室への理解が深まったとみてよいと思います。通常の学級からひまわり（特別支援教室）で1週間に数時間過ごす児童がいます。児童だけでなく保護者、地域の皆様方に特別支援教室の導入と運営についてご理解いただけますよう今後も折に触れて説明して参ります。

